

事業コード	H23-建-継-7		区 分	国庫補助 県単独
事業名	海岸侵食対策事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	海岸事業		班 名	河川・ダム・海岸班 (tel) 018-860-2514
路線名等	本荘海岸		担当課長名	石黒 互
箇所名	由利本荘市松ヶ崎		担当者名	主幹(兼)班長 市川 利和
総合計画との関連	政策コード	11	政策名	生活基盤の整備
	施策コード	02	施策名	災害に強い県土づくりと社会資本の長寿命化
	指標コード	01	施策目標(指標)名	土砂災害防止施設、河川、海岸の整備

1. 事業の概要

事業期間	H04 ~ H25 (22年)		総事業費	24.7億円	国庫補助率	1/2
事業規模	計画延長 L=1,420m 人工リーフ350.0m×3基					
事業の立案に至る背景	秋田県南西部に位置する当海岸は冬期風浪や台風等により、海岸侵食が進み、汀線が後退したことにより、波の打ち上げ高も増大しており、背後地の施設などに被害を及ぼす恐れがある。このような状況から、海岸侵食及び越波による浸水被害を防止するため、効果的な施設の整備をする必要がある。					
事業目的	本荘海岸の重要性に鑑み、50年確率の計画波浪に対し安全な海岸保全施設の整備を図るものとし、周辺環境を重視した人工リーフを設置するものである。これらによる一体的な整備を行うことにより、侵食災害および侵食を防止する。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		2,059,000	2,462,000	403,000	
	経費 内訳	工事費	1,865,900	2,328,000	462,100	
		用補費	0	0	0	
		その他	193,100	134,000	-59,100	
	財源 内訳	国庫補助	1,029,500	1,231,000	201,500	
		県債	926,000	1,107,900	181,900	
その他		0	0	0		
一般財源		103,500	123,100	19,600		
事業内容		人工リーフ3基	人工リーフ3基		海底地盤の変動(低下)による基礎工及び本土工の増工による。	
事業の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 全体事業費 24.62億円 平成22年度末投資額 23.82億円 進捗率 96.7% 					
事業推進上の課題	特になし					
関連する計画等	「ふるさと秋田元気創造プラン」で5つの戦略を支える横断的な取組の(4)社会資本整備の推進の中で水害・土砂災害への対応力強化が位置付けられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	日本海沿岸における海洋工事は、冬期間の風浪及び波浪の影響により、施工期間が年間の半分程度しかないため、期間を要している。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	海岸整備率				
	指標式	海岸整備率 = 整備延長 / 海岸保全延長				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	57.3 %		データ等の出典	県河川砂防課	
	実績値 b	56.7 %				
達成率 b/a	99.0 %		把握の時期	平成23年3月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	当海岸の侵食速度は2.7/mであり、未整備の場合、既設護岸及び海岸背後地が侵食する危険を伴っている。 また、緩傾斜護岸の決壊に伴い、高潮の災害に見舞われる危険も有している。 さらに、地元ではゆとりの水辺空間として市民の利用度が高く、マリンスポーツから散策、釣り等の多岐にわたる利用が見込まれる。	30点
緊 急 性	当海岸は、年に3m近い侵食が進んでおり、防護地域には松ヶ崎地区の住宅がおよそ40戸ある。また、背後には秋田市と由利本荘地域を結ぶ唯一の国道である国道7号があることから、侵食対策事業としての緊急性は高い。	18点
有 効 性	「ふるさと秋田元気創造プラン」の中で水害・土砂災害への対応力強化が位置付けられており、当該事業により、汀線の後退を抑制し、海岸背後地の保護、また、水辺空間としての資源を保護することは有効である。	10点
効 率 性	(費用対効果) 事業の費用対効果は1.0以上であり、有効性は高い。 (コスト縮減の状況) 使用するブロックについて費用比較を行い、安価なブロックを使用しコスト縮減を図っている。	9点
熟 度	人工リーフの整備により、砂浜が回復していることから侵食対策事業継続への期待は大きい。また、海岸線から人家までの距離が近いので、地元からの要望も強い。	20点
判 定	ランク () 地元からの要望が高く、「重要性」「有効性」「効率性」等から、事業の必要性は高く評価できるものとする。	87点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業の継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に努めながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 海岸事業

事業コード(H23-建-継-7)
箇所名 (由利本荘市松ヶ崎)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	防護対象となる面積・人口 1 kmあたりの防護面積・人口	10 ha以上又は100人以上	15	15	
		7 ha以上又は70人以上	10		
		5 ha以上又は50人以上	5		
		その他	0		
	災害発生時の影響 浸水・侵食戸数	10戸/km以上	10	10	
		5~9戸/km以上	7		
		5戸/km未満	3		
	事業箇所の現状 波浪、浸食等に対する防護性	波浪、浸食の被害があるなど防護は劣っている	5	5	
		被害は見られないが防護は劣っている	3		
		優れている	0		
計		30	30		
緊急性	海岸整備の緊急性 過去の被害実績	過去に2回以上の被害実績がある	5	5	
		過去に1回の被害実績がある	3		
		記録された被害実績はない	0		
	侵食の速度	1.0m/年以上	10	10	
		0.5m/年以上1.0m/年未満	7		
	生命財産の危険性	0.5m/年未満	3	3	
		背後地住民の生命財産に関わる被害が想定される 越波による冠水や砂浜侵食の被害が想定される	5 3		
生命財産の危険性は想定されない	0	0	20	18	
有効性	海岸整備に伴う有効性 災害の防止効果	越波災害防止効果が発現する	5	5	
		災害防止効果は現状と変わらない	0		
	侵食防止の効果	砂浜侵食防止効果が発現する	5	5	
		侵食防止効果は現状と変わらない	0		
計		10	10		
効率性	事業の投資効果 費用便益比(B/C)	1.0以上	5	5	
		1.0未満	0		
	事業実施コストの縮減 該当項目数	3項目以上	5	1	
		2項目	3		
		1項目	1		
	当初計画との比較 当初計画事業費からの増減	無し	0	3	
減少又は10%未満の増加		5			
	10%以上30%未満の増加	3	0	0	
計			15	9	
熟度	環境との調和への配慮状況 環境保全への配慮	システムでの環境配慮事項が3事項以上	5	5	システム = 秋田県公共事業環境 配慮システム
		システムでの環境配慮事項が1?2事項	3		
		システムでの環境配慮事項がない	0		
	地元との合意形成の状況 地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5	
		意向が強く要件の同意を概ね得ている	3		
		意向が一部で強いがまだ要件の同意を得ていない	1		
	市町村の参画	積極的に参画し要望書等の提出がある	5	5	
参画している		3			
参画していない	0				
事業の進捗状況 進捗率	計画より進捗している	10	5		
	概ね進捗(90~100%未満)	5			
	計画より遅れている(90%未満)	3			
計			25	20	
合計			100	87	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		